

集落限界点評価手法と 持続可能な流域圏の構築

一ノ瀬友博(慶應大)

東淳樹・原科幸爾(岩手大)・林直樹・齋藤晋(総合地球研)・前川英城(大谷大)・山下良平(京大)

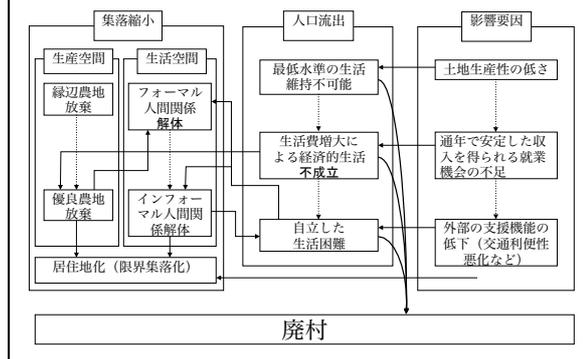
目的

- 中山間地域の集落存続限界点を明らかにする手法の構築→意思決定支援
- 人口減少下においても人文社会的にも、自然環境的にも持続可能な圏域を設定
→集水域を基本単位とし、30~50年間の持続性を想定
- 圏域内の持続的な管理のあり方を検討

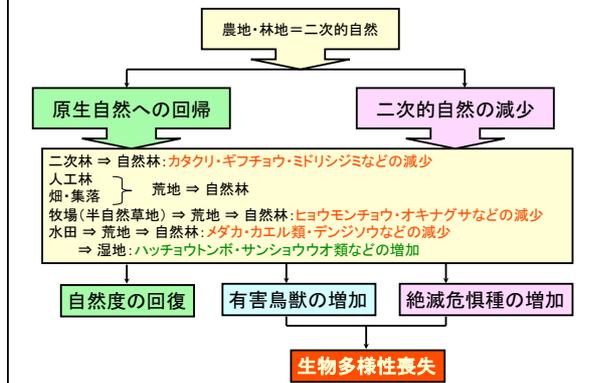
研究の構成

- 過疎や廃村過程と、耕作放棄の及ぼす影響についての既往研究、事例の収集・整理
- 輪島市門前町を対象としたアンケートとヒアリングで集落限界点診断手法検討
- 集水域を基本とした持続可能な圏域の設定の圏域内のゾーニング
- 市民が参画する国土管理に向けて

廃村プロセス



集落移転ともなう跡地の生物多様性喪失のプロセス

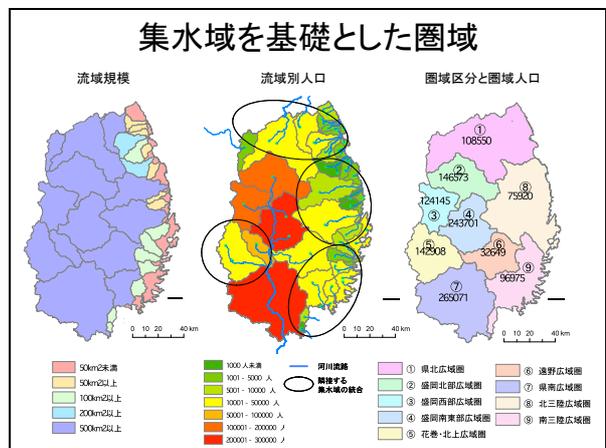
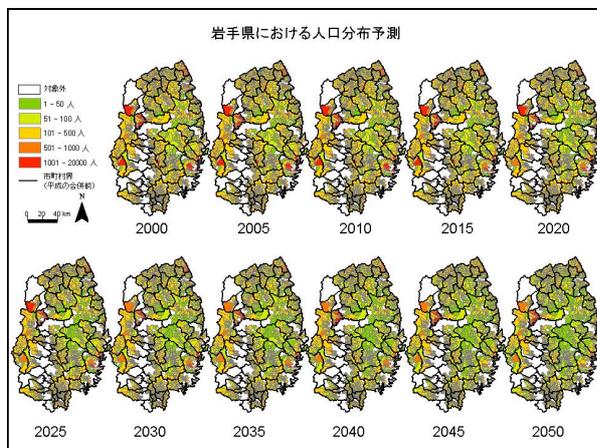
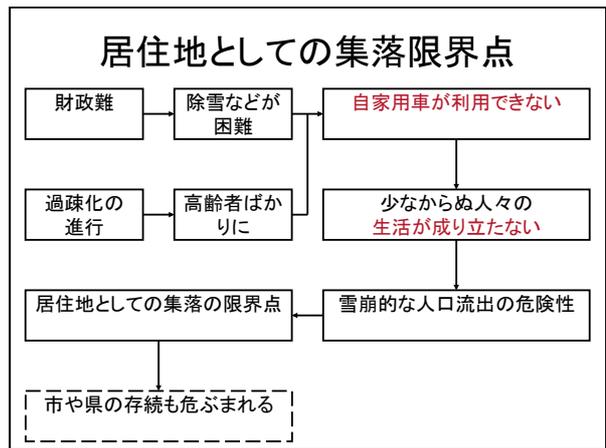
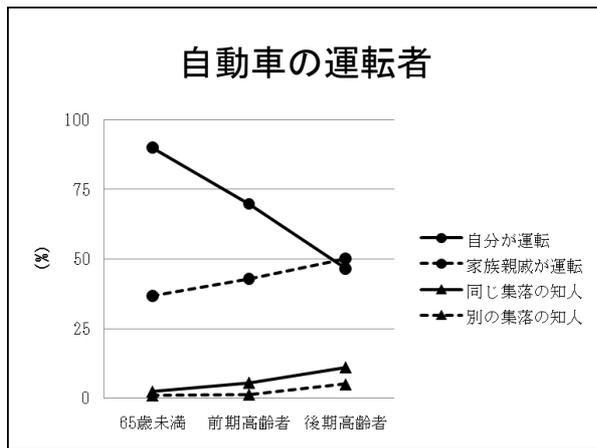
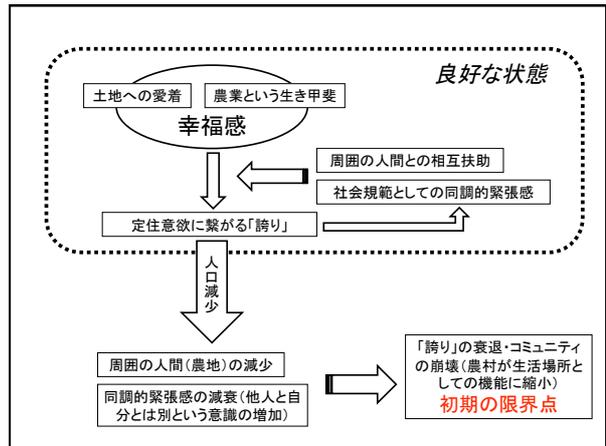
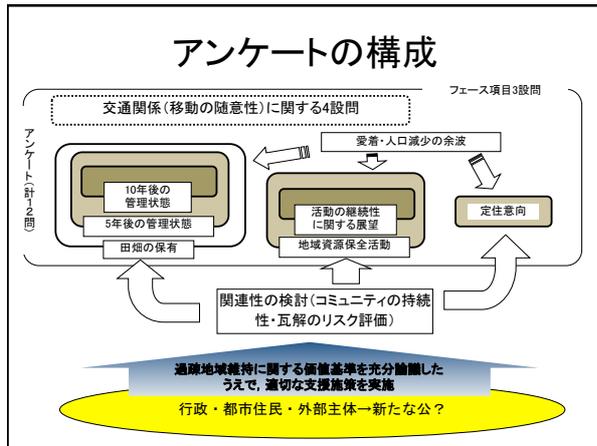


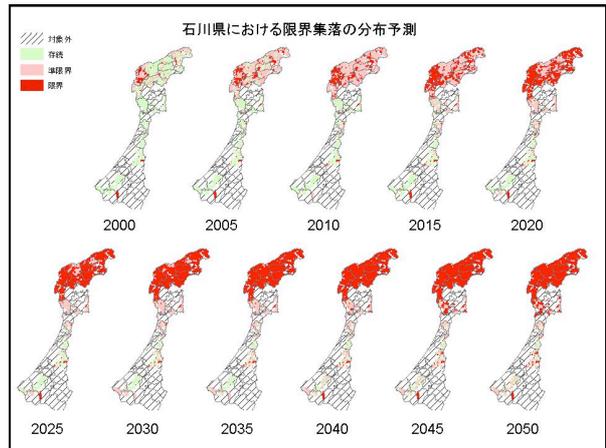
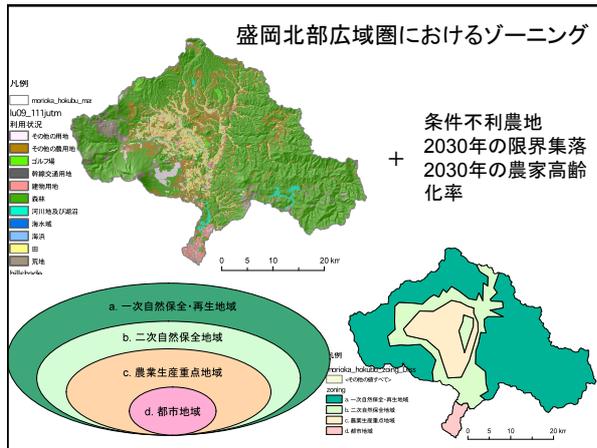
輪島市門前町における調査

全世帯を対象にしたアンケート及び区長へのヒアリング



地区名	人口	戸数
岸地区	1,071	534
阿岸地区	595	272
黒島地区	450	225
諸岡地区	1,024	449
門前地区	2,018	837
本郷地区	891	374
浦上地区	743	320
七浦地区	625	295
総計	7,417	3,306





国土の管理に向けて

- 国土形成計画→「国土の国民的経営」-多様な担い手による国土の維持管理
- **集水域を単位とした国土の管理**
下流部の都市住民が上流部の環境管理対象-主に二次自然保全域
- 受け皿となるプラットフォームと、情報共有とモニタリングのためのシステムが必要
- 国土レベルで対応すべき地域の存在